

資料提供		
平成 22 年 12 月 21 日		
担当課 (担当者)	(財)鳥取県教育文化財団美和調査事務所 (濱田竜彦)	文化財課 (高尾浩司)
電 話	0857-51-7553 / 090-8243-4213	0857-26-7525

もとだかゆみのき
本高弓ノ木遺跡で

「弥生時代最古の貯木された丸太材」と「因幡地域最古相の弥生土器」を発見

(財)鳥取県教育文化財団では、国土交通省が行っている一般国道9号線(鳥取西道路)の改築事業に伴う発掘調査を実施しています。このうち、昨年度に引き続き調査中の「本高弓ノ木遺跡」で縄文時代晩期末～弥生時代前期の水路跡から弥生時代最古の貯木された丸太材が大量に出土し、併せて因幡地域最古相の弥生土器が見つかりましたので、記者公開を下記のとおり開催します。

- (1) 日 時：12月24日(金) 午後2時から(小雨決行)
- (2) 場 所：鳥取市本高地内 (下図参照)
- (3) おもな調査成果

現在調査を行っている縄文時代晩期末～弥生時代前期の水路跡から、水路内に貯木された大量の丸太材や因幡地域で最も古い特徴をもつ弥生土器が出土しました。

① 弥生時代最古(前期)の貯木された丸太材(別添写真上段及び下段左側)

水路から丸太材が大量に出土しました。枝打ちされたうえ樹皮が剥がされ、表面に石斧によると思われる加工の痕跡があることから、自然の倒木ではなく、人が伐採したものであることが分かります。このことから、**大量の丸太材は水路の中に貯木されていたものと考えられます。**また、丸太材は②の土器を含む粗い砂に埋め尽くされていたため弥生時代前期のものともみられ、**丸太材を大量に集積(貯木)した状態が発見されたものとしては弥生時代最古例であり、弥生時代開始期における木材利用のあり方(木材加工の工程)を示す極めて貴重な発見です。**

② 因幡地域最古相の弥生土器(別添写真下段右側)

貯木に使用されていた水路から これまで因幡地域で未確認であった弥生時代前期初頭の土器が出土しました。縄文時代晩期末の特徴をもつ土器と共伴しており、因幡地域における縄文時代から弥生時代への移行の様子を知る手がかりとなる貴重な資料です。

- (4) 現地公開：12月25日(土) 午後3時から、30分程度(小雨決行)

雨天で発掘作業が中止した場合は公開を延期し、12月27日(月)午前10時から公開します。



遺跡の場所



発掘調査中の水路から出土した多量の丸太材



大径木（径約 80 cm）の丸太材



因幡地域で最も古い特徴をもつ
弥生土器の壺
(右の黒い土器片は、縄文時代晩期末
の特徴をもつ土器)